

## 一日目

これから 今から 話す話は 僕が これから 今から 消えてしまうまでのこと 僕は 消えてしまっていて だけど 今は ここにいて 消えてしまうまでの話を しようとしていて だけど 今は 今から 消えてしまうまでのこと 話すから 消えてしまうまで 僕は ここにいて こうして 話している / 話 / でも / なんか 一秒に ひとりすれ違っても あの この世の人と 全員とは 出会えないっていう のが あって / 一秒にひとり / すれ違っても この 全世界の人とは 出会えきれないらしくて だから 電車で向かいにいる人とかが もう 一駅とかでも 同じ時間を過ごす と なんか それ以外の人とはもう どんどん出会えなくなっていくみたいなの 気持ちにたまに この人も 一秒じゃなくなったっていうか なくなっているっていう時点で だから 五分間同じ車両に乗っていたとすると この五分間分の人数と もう 出会えないなあ それがいい悪いとかじゃなくて 単純に 数っていうか すごい ほんと客観的な ものとして ああ もう会え どんどん 会える人数が 減っているなっていうか たまに 思ったり する / んですけど 消えてしまうっていうのは 死んでしまうっていう意味ではなくって エジプトとかにでも行けば 今 消えてしまえるかなって思って だから 僕は ここにいて こうして 話している いるんだけど 消えてしまっていて 今 ここにいるのは 消えてしまったからの 今 なわけだから / 僕は あんまり覚えていなくて あんまり思い出せなくて その瞬間だけ すごい覚えてて 彼と 彼女が 出会った時のこと 出会いは その瞬間だけ すごい 覚えてて / 今 は もう 消えてしまっていて 僕が 消えるのは 彼と 彼女が 出会う 前のこと 今 は もう 出会ってしまっていて だから 僕は 消えてしまっていて つまり 僕は 彼と 彼女と 出会っていない し これから 今から も 出会うことは ない それが 彼の ための 一秒なのか 彼女の ための 一秒 なのかは わからなくて だけど 彼に とっても 彼女に とっても 彼が 彼女が 出会ってしまえば 僕は 消えてしまえば 僕は 彼と 出会わない 彼女と 出会わない 代わりに 今 ここで こうして 話をしている / 僕は / ほんとに / あんまり覚えてなくて / どんな風に出会ったかなっていうのを / あんまり思い出せなくて / 気づいたら とかだから だから 印象的な出会いって訊かれたら 全然関わりのない人 / その瞬間だけ / 出会った人みたいなのが / すごい覚えてて / 出会っていうか その 記憶に残っている その 印象的な人っていうのは やっぱり あの いますよ 僕も / それ以上でも それ以下でもない / それ以上でも それ以下でもない / 話

-----  
木曜日

僕           これから 今から 話す話は 僕が これから 今から 消えてしまうまでのこと  
僕は 消えてしまっていて だけど 今は ここにいて 消えてしまうまでの話を しようとして  
いて だけど 今は 今から 消えてしまうまでのこと 話すから 消えてしまうまで 僕は  
ここにいて こうして 話している / 話 / でも

----- (

なんか 一秒に ひとりすれ違っても あの この世の人と 全員とは 出会えないっていう  
のが あって

) -----

----- (

番い・女性   なんか 一秒に ひとりすれ違っても あの この世の人と 全員とは 出会えない  
っていう のが あって

) -----

番い・男性   え / 一秒にひとり

僕           すれ違っても この 全世界の人とは 出会いきれないらしくて だから 電車で  
向かいにいる人とかが もう 一駅とかでも 同じ時間を過ごすと なんか それ以外の人は  
もう どんどん出会えなくなっていってるみたいな 気持ちにたまに この人も 一秒じゃなくなっ  
たっていうか なくなっているっていう時点で だから 五分間同じ車両に乗っていたとすると  
この五分間分の人数と もう 出会えないなあ それがいい悪いとかじゃなくって 単純に  
数っていうか すごい / ほんと客観的な ものとして / ああ もう会え どんどん 会え  
る人数が 減っているなっていうか たまに 思ったり する

番い・男性   悔しいですか それって

番い・女性   いや 悔しいとかも なくって なんか その 一秒に一人っていう話を聞いてか  
ら そういうことを考えることになって 別に もう お金の計算レベルで の話かな あの  
いいとか悪いとかじゃなくって 今何円持ってるとかの 感情の入らない 計算 だから どん  
だけ頑張っても全員とは絶対会えないし 日本中の人とも 絶対会えないし

番い・男性 景色 があるじゃないですか 世界中いたるところに それを 生で こう 見た  
りとか 感じたり し できないとなると 悔しいですか

番い・女性 ああ

番い・男性 エジプト行ったことありますか

番い・女性 ないです

番い・男性 エジプト行けない 人生の中で 一度も行けないってなったら 悔しいですか

番い・女性 えと それは 悔しい です だからといって 人生の中でエジプトに行くことを  
自分が選択するかどうかは わからないけど 行か 行けない人生ですよっていわれると 悔し  
い

番い・男性 ああ なんかそういう感覚と 似てるような気がしました さっきの あの 一秒  
にこう 一人だと間に合わないみたいなのは

番い・女性 うん 結局は出会う人も選んでんだとは思うけど 確かに もう これだけの人と  
は 出会えないですよっていうこと 自体は 少しやっぱり 悔しいかも しれない

番い・男性 うん うん

番い・女性 エジプト行きたいですか

————— (

番い・男性 僕は / そんなに / ラクダに乗ってみたい / 食べ物食べたいとは 思い  
ますね 世界各地の でも 虫とか食べちゃうのかなあ どうなんだろうな / 絶対美味しい  
やんとかは なんないけど / 一回食べたことあるなあ / 覚えてない / でもその 出  
会っていうと や 食べ物は すごく 人 以上に 出会えた感じが / ある

) —————

————— (

僕 彼は / 福岡出身なんですけど 大学で 東京に 上京してきて 今もなお 東京に住んでて すごく色白で それは 大学を卒業してからなのか そんなに 家を し きちんと 出なくて よくなったから 日に当たることが少なくなって 白くなっ てきて で 彼は あの すごく 話し方が柔らかくて 育ちの良さが 出ている きっと 妹が いるんじゃないかなと 思うような 暖かい話し方をするけど でも 話し方は柔らかいけど すごい しっかりとした 意思が / ある

) —————

————— (

番い・女性 私は 行きたい でも / え 鳥取砂丘いったら 乗れる / 食べたことないけど イナゴ とかは 絶対美味しいやん て 思う / いかなごのくぎ煮とか 佃煮系かなとかっていう あの 茶色さは 食べたことない / 美味しかった / ただ 覚えてないってことは 許せたってことでしょう

) —————

彼とは 仲良く なれそう かどうかはわからないけど なりたいて気持ちはあって それは 私が 失礼な態度を取りすぎないことが 重要な と感じている というのは きっと失礼な態度を取っても 優しく返してくれそうだから 申し訳なくなってしまう からで ちゃんと考えながらも 親しくなれたらいいな っていう 感じ の距離で ま ちょっと 離れてるんですけど ま 目が合う距離で で 私は 結構観葉植物とか サボテンとかを飼ってて それを毎日 外に出したりして 日に当てたりしてるんですけど たまたま 開けた時に その 向かい側から 彼が 開けて 目が合って まあご近所さんなので 軽く会釈をして そしたら向こうも会釈を返してくれて あ そんな 感じ て いたなあ と 思う けど え これ なんの話 さい 再会 の / 話

—————  
金曜日

僕 んですけど 消えてしまうっていうのは 死んでしまうっていう意味ではなくって エジプトとかにでも行けば 今 消えてしまえるかなって思って だから 僕は ここにいて こうして 話している いるんだけど 消えてしまっていて 今 ここにいるのは 消えてしまっからの 今 なわけだから

————— (

中学時代に 出会ったというか いた人 で なんか その 地域というか 区域に住んでいる  
人 とは 仲良くしない方がいいっていう なんかそういう暗黙の了解みたいな 親に 訊いた  
ら なんかあんまり遊ばないでみたいな そういう ね なんか 大人のめんどくさい事情とか  
もあるでしょうけど なんか それの 子供版みたいな / 彼女が / いて まあ こう  
大人がいていたことだから すべて正しいみたいな 考え方の持ち主で でそれに 反するこ  
とを 誰か がいうと もう ものすごく 攻撃をね してくるわけですよ 言葉で で あの  
気に食わないと すぐイライラして なんでそんなこというんだつって ただ / 彼女は /  
誰かと こう 徒党を組んで その 相手に対して こういじめみたいに 責め立てたりするこ  
とはなくて ただもう / 彼女 / 自身が 単独にやっているような子で なんか / 彼  
女を / 見て少し 寂しい っていうか なんでだろうなあ みたいな / 彼女が / なん  
で そういった こう偏った考え方の持ち主で で それを なんで 自分で 疑わないんだろ  
う 考えたりもしてて で あの 体育の 授業の 時かな / あの  
) -----

番い・男性 僕が

----- (

中学時代に 出会ったというか いた人 で なんか その 地域というか 区域に住んでいる  
人 とは 仲良くしない方がいいっていう なんかそういう暗黙の了解みたいな 親に 訊いた  
ら なんかあんまり遊ばないでみたいな そういう ね なんか 大人のめんどくさい事情とか  
もあるでしょうけど なんか それの 子供版みたいな / 彼女が / いて まあ こう  
大人がいていたことだから すべて正しいみたいな 考え方の持ち主で でそれに 反するこ  
とを 誰か がいうと もう ものすごく 攻撃をね してくるわけですよ 言葉で で あの  
気に食わないと すぐイライラして なんでそんなこというんだつって ただ / 彼女は /  
誰かと こう 徒党を組んで その 相手に対して こういじめみたいに 責め立てたりするこ  
とはなくて ただもう / 彼女 / 自身が 単独にやっているような子で なんか / 僕  
は / 彼女を / 見て少し 寂しい っていうか なんでだろうなあ みたいな / 彼女が  
/ なんで そういった こう偏った考え方の持ち主で で それを なんで 自分で 疑わな  
いんだろう 考えたりもしてて で あの 体育の 授業の 時かな / あの / なんか  
) -----

よく考えることが

----- (

僕            なんか / 一秒に ひとりすれ違っても あの この世の人と 全員とは 出会  
えないっていう のが / あって  
) \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ (

番い・男性    あって

) \_\_\_\_\_

横断歩道ですね あの こう立ってるわけですよ 僕が で あの ここに 立っている人々 も  
ちろん向かいの 横断歩道の 向こう側にいる人 と 僕は この人生で もう一度 この距離  
で 向こう側にいる人 と 会うことは / 一度 たりとも / 来ないんじゃないかって  
いう ことを よく 考え / てた時期がありまして あの だから それこそ ベタに ソ  
フトクリームとかを 持って こう 歩いて 向こう側にいる人 に ベチャって ソフトクリー  
ムを くっつけて そしたら 向こう側にいる人 と 関係性がひとつ 生まれるわけじゃない  
ですか

\_\_\_\_\_ (

なんか

) \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ (

僕            なんか / 一秒に ひとりすれ違っても あの この世の人と 全員とは 出会  
えないっていう のが / あって  
) \_\_\_\_\_

番い・男性    そういう ことを しないと もう こ あ 話すこともないし あの 関わりを  
持てない って いうことを 思うんすよね

\_\_\_\_\_ (

なんか

) \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ (

僕            なんか / 一秒に ひとりすれ違っても あの この世の人と 全員とは 出会  
えないっていう のが / あって  
) \_\_\_\_\_

番い・男性 悲しい というか少し 寂しい というか だから このソフトクリームさえあれば 向こう側にいる人 に 出会えるんじゃないかって あの マクドナルドの二階の窓から 横断歩道を見下ろして よく 考えてたりしました

僕 彼女は

————— (

歳は そうですね 二十代 何歳だろう まあ 二十四とか 二十五とか その辺で 血液型は O型で えっ と 性格は 基本的には え こう おだやかで 人に対しての優しさも 兼ね備えてはいるんですけど 根本的には 頑固な性格だから あの 自分の その 犯されたくない 領域 まで 人が入ってくると 彼女は 排除しようとするところが やっぱり あるんですね で ええと 兄弟は お兄ちゃんがひとり で ええ 家族は 母親父親共に 公務員 ええと 可愛いものは結構好きで あの そういうキャラクターの ものとか 極端にいうと かえるの 置物とかを 集める 人と同じような あの 趣味趣向は している でも 部屋には ものはそこまで多くなくて きちんと 整理整頓はされている 洗濯物も そこまで溜め込まない 水回りも比較的綺麗 休日は 散歩をしたりする 散歩を 何も 目的もなく 歩ける タイプの人 お兄ちゃんが 階段を降りる時に 手を 必ず こう決まった 壁沿いに こう 手をつけるもんだから その壁の部分だけ 手の形に こう 黒ずんでいて それを おもしろいと / 思って

) —————

番い・女性 私は

————— (

そういう 横断歩道とか の 出会い と 今関わりを持っている人たちの 出会い方って もう 全然 違うもの だと思っていて その 横断歩道ですれ違う人とかは 本当に 奇跡的な 運としかいえないような 出会いだけど 今でも関わりを持っている人たちっていうのは わりと必然的な 出会いかなと思っていて それでその 必然的に出会った人たち とは 出会いあんまり 覚えてなくて というのは こっちが一方的にすでに知っていた とか 知られていたとか で はじめて話し すことと 出会いが ずれる かな と思って とか 何回でも 出会える その はじめて見た時 と はじめて話した時 と はじめて心通じたな って時とか そういう なんか 出会ってからでの 段階段階 で いろんな 出会いが 出会いとか 発見 が 出会いかな って 思おう から そう すごい いろんな 出会い方があるから ひとつに出会っていても なんか これって いいきれないっていうか うん 二つ

というか まとまっ た 出会って いえるものと 継続的に あるも の の 二種類か  
な っ て / 思 っ て  
) \_\_\_\_\_

番い・男性 親との 出会い とかっ て

\_\_\_\_\_ (   
僕 ああ  
) \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ (   
番い・女性 ああ / じゃあそれ  
) \_\_\_\_\_

番い・男性 これは 継続的 なもの

\_\_\_\_\_ (   
僕 ああ  
) \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ (   
番い・女性 ああ / ええ っと また違うかもしれなくって 私は 親と 出会ってる気持  
ちにはなっていない最初の段階で 新たな一面を発見っていう意味での 出会いは あるけど  
生まれた瞬間 って 親は 私と 出会ってるけど 私は 親とは 出会ってないと 思う 意識  
の 中でだけど  
) \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ (   
僕 ああ  
) \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ (



番い・男性 ああ / まあ 確かに だから 自分の うちの一つ ってことですよね その  
最初は だから 物心が いつ ついたとかはわかんないですけど まあ 二 三歳 の時には  
すでに 自分の 内のものの 一つ

) \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ (

僕 うん あ あそう

) \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ (

番い・女性 うん あ あそう

) \_\_\_\_\_

番い・男性 手があって こう 声が出て 親が いるっていう

\_\_\_\_\_ (

僕 うん うん

) \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ (

番い・女性 うん うん

) \_\_\_\_\_

番い・男性 もう 同等のものとして

\_\_\_\_\_ (

僕 そうかも

) \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ (

番い・女性 そうかも

) \_\_\_\_\_

番い・男性 ね 家も あるわけだしね もう

————— (   
 僕 親か   
 ) —————

————— (   
 番い・女性 親か   
 ) —————

僕 その日は 朝から / 雨 が / 降っていて で

————— (   
 傘を持って でかけてて で 確か まあ 割とビルが 並んでいるようなところで でまあ 普通   
 通に ま 買い物の予定だったんで 歩いてたんですけど で そしたら まあ 目の前に こ   
 う なんていうか 結構荷物をね 持った人がいて で あ この人 傘持っていない人だって 見   
 た感じでね わかって でなんか 普段 あんまり そういうことは しない方なんですけど   
 なんか / 傘持っていないんですかって / なんか不思議と 声が出ちゃって ていうかなんか   
 声かけやすそうな 人だったんですねなんか 後ろ姿で見た感じ   
 ) —————

番い・男性 まあ 僕も

————— (   
 傘を持って でかけてて で 確か まあ 割とビルが 並んでいるようなところで でまあ 普通   
 通に ま 買い物の予定だったんで 歩いてたんですけど で そしたら まあ 目の前に こ   
 う なんていうか 結構荷物をね 持った人がいて で あ この人 傘持っていない人だって 見   
 た感じでね わかって でなんか 普段 / 僕 / あんまり そういうことは しない方な   
 んですけど なんか / 傘持っていないんですかって / なんか不思議と 声が出ちゃって て   
 いうかなんか 声かけやすそうな 人だったんですねなんか 後ろ姿で見た感じ   
 ) —————

僕 その日は 朝から

番い・女性 雨 が / 朝から降ってたけど ポツポツだったし 荷物が多い から 傘持つのすごくいやで まあ 止むだろうと思って 傘持たずに 出かけて あ 画塾に行ったんですけど 画塾終わって 出て まだ まさかの雨が 降っていて でもそんなに駅までも 遠くないから で人よりも そんなに 雨をそんなに気にしない 方だから もういいやと思って そのまま画塾出たら 後ろから 傘がさされて え って思って そしたら

番い・男性 傘持ってないんですか

番い・女性 って

番い・男性 駅まで だったら 一緒に行きますよ

番い・女性 って 傘に入れてくれた人がいて こんなことある て思いながら あ すいません ありがとうございます っていって ちらっと顔を見たら 同い年くらいの 人で もう 知ってる

————— (

目

) —————

を していて あ もう すぐ ピンと 来たんですよ

————— (

番い・男性 目

) —————

の前に立っている 彼女と ええ 僕は 最悪な形で 出会っていると で その時間が だいたい二秒ぐらいだったと 思うんですけど で あっちが すみません っていって 扉をバタンて 閉じてくれた わけですよ で 僕は ああ しまったと 思いながら なんか 頭に引っかかるような気がしてて で そのすみません っていった 声が その 中学生の時に クラスが一緒だった 彼女と 似ていて というか 彼女 そのもので で 姿とかは 全然

————— (

中学の時

) —————

とは 違ったんですけど

————— (

僕 中学の時

) —————

から 目が気になってたというか 他に ない

————— (

目

) —————

を して いて 何 考 え / る か 読 み 取 れ ない か ら ず っ と 気 に な っ て た の で 彼 が も う 入 っ て 来 た 瞬 間 に わ か っ て 結 構 ざ わ つ い て あ の 気 持 ち が で も 相 手 が 気 づ い て る か ど う か わ か ら ない か ら と り あ え ず 気 づ か ない ふ り を し て ま ー か ら / 関 係 性 / を 築 く み た い な 感 じ で

————— (

番い・男性 目

) —————

の 前 に 立 っ て いる 彼 女 と え え 僕 は 最 悪 な 形 で 出 会 っ て いる と で そ の 時 間 が だ い たい 二 秒 ぐ ら い だ っ た と 思 う ん で す け ど で あ っ ち が す み ま せ ん っ て い っ て 扉 を バ タ ン て 閉 じ て く れ た わ け で す よ ね で 僕 は あ あ し ま っ た と 思 い な が ら な ん か 頭 に 引 っ か か る よ う な 気 が し て て で そ の す み ま せ ん っ て い っ た 声 が そ の 中 学 生 の 時 に ク ラ ス が 一 緒 だ っ た 彼 女 と 似 て いて と い う か 彼 女 そ の も の で で 姿 と か は 全 然

————— (

中学の時

) —————

とは 違 っ た ん で す け ど

————— (

番い・女性 中学の時

) —————

か ら 目 が 気 に な っ て た と い う か 他 に ない / 目 / を し て いて あ も う す ぐ ピ ン と 来 た ん で す よ こ う 傘 に 入 れ て も ら っ た ま ま 駅 ま で 一 緒 に 歩 いて で 駅 で さ よ う な ら し て あ り が と う ご ざ い ま し た っ て い っ て 別 れ た ん で す け ど す ぐ い 奇 跡 的 な ま 再 会 と い う か だ っ た な あ と 思 っ て 中 学 の 時 も そ ん な に 話 し た こ と は な か っ た し と い

うか 中学の時の 私は 結構 今思えば 尖りすぎてて恥ずかしかった部分も あるから  
ちょっと ま 恥ずかしかったんですけど 今日出会ったこと とかも でも 彼は 中学の時  
に感じてた印象 優しい 柔らかめの印象が そのまま 持ったまんま 大人になってて で目  
つきは ほんとにそのまま で いい歳の取り方を してるなあと しみじみ 思って なんか  
今だったら もっと いろんな話が できたかもしれない あの頃とは違う距離感で 今は絶対  
話せるはず 何も せずに 帰って 帰って でも今日は 雨だから 雨 だから 外には出せ  
ないよ って 植物たちに ま 声かけをして 晩御飯の 準備を はじめたんですけど 私は  
実家から 卒業アルバムを 持って来てたので ご飯食べ終わってから 中学の卒業アルバムを開  
いて 今日その 再会した 彼を 卒業アルバムで見つけて 今日のこと思い出して でも気  
がついたら 中学の時に好きだった男の子の 体育祭の 騎馬戦で 帽子を取って喜んでる 写  
真を見て ニヤついてました 翌朝 すごい晴れてて 今日 植物たち外に出せると思って  
窓を開けて いつもエアコンの室外機の上に 植物を並べるんですけど それをやってて 隣の  
————— (

アパート

) —————

窓が見えるんですね ベランダから で 会った

————— (

番い・男性 アパート

) —————

違うんですよ こっちの住んでるアパートと あっちの住んでるアパート で こう 窓を開ける  
と あっちの窓が ちょうど正面に位置するような 場所で で あっちは こう 窓とかに  
こう 観葉植物とかをね 置いてるんですよ サボテン サボテンですね サボテンですよ で  
なんとなく 女性が住んでるなっていうのは わかってたんだけど たまたま その日 窓を こ  
う ガラガラって

————— (

開けた時に

) —————

ちょうど あっちも ガラガラ で パッと こう で こっちは あの どうしよう 迷って  
いると あっちが 先に

————— (

会釈

) —————

してくれる わけですよ あ っと思って

————— (

会釈

) —————

して でも あの アパートと アパートの距離は そこそこ空いてて で 話すにしても ちょっと声を張らないといけないぐらいの距離で で あっちは こう 会釈を こう 済ませたらその 植物を こう なんですか 整理して まなんか 部屋の中に入れたりとか 逆に 出したりとか で 僕は それを なんとなく ぼうっと見ている で なんかその日は それで

————— (

おしまい

) —————

————— (

番い・女性 開けた時に

) —————

その 向かい側から 彼が 開けて 目が合って まあご近所さんなので 軽く

————— (

会釈

) —————

をして そしたら向こうも

————— (

会釈

) —————

を返してくれて あ そんな感じだったんですけど

————— (

僕 おしまい

) —————

だったんですよね そのまま寝て で 次の日は 仕事があったんで 朝八時から その準備してその八時半には 出たんですけど なんとなくその時に ベランダ見たんですけど あっちは全然開く様子もなくって 彼女は なんの仕事してるんだろう とか

————— (

考えて るか 読み取れない / あの だから それこそ ベタに / その人がもう 入っ  
て来た瞬間に / 歩いて 向こう側にいる人 に / あの 気持ちが でも 彼が / くっ  
つけて / わからないから / 向こう側にいる人 と / ふりをして ま 一から /  
関係性 / が ひとつ / みたいな感じで  
) \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ (  
番い・男性 考え / てた時期がありまして あの だから それこそ ベタに ソフトクリー  
ムとかを 持って こう 歩いて 向こう側にいる人 に ベチャって ソフトクリームを くっ  
つけて そしたら 向こう側にいる人 と / 関係性 / がひとつ 生まれるわけじゃ  
ない  
ですか  
) \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ (  
番い・女性 考え / るか 読み取れない からずっと 気になってたので その人がもう  
入って来た瞬間に わかって 結構 ざわついて あの 気持ちが でも 彼が 気づいてるかど  
うか わからないから とりあえず 気づかない ふりをして ま 一から / 関係性 /  
を築く みたいな感じで  
) \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

土曜日

僕 彼は あんまり覚えていなくて あんまり思い出せなくて その瞬間だけ すごい  
覚えてて 出会った時のこと 出会いは その瞬間だけ すごい 覚えてて 窓越し だったり  
雨が降っている日 だったり 電車の中のトイレ だったり 鉄格子の中 だったり / なん  
か もし おならしちゃって 誰にも 聞こえてなくても あ おならしちゃった って いわな  
かったらわからなかった みたいな のに 似た状況かな と思って / なんか 年齢が 結  
構上の人 のほうが いわなくても いいのに いうこと 多くないですか / こう なんか  
食べ残し 食べ残し て まあ下げる のは下げるじゃないですか しょうがないから なのに  
残しちゃったごめんね みたいな そういう の あの バイト先とかで 時々 いますけど  
/ まあ 基本的に 年齢が 上の人の方が 多いですよ / 多い でもその 奢ってもらっ  
た アイスも もう 変に申し訳なさしかないから / 美味しくないし なんだろこの時間

て で その人も アイヌ買って食べてて / なんか 世間話とか え 普段何してる人なんです  
 つか みたいな 話になっちゃって なんか なんにしてんだろ みたいなのは やですね /  
 バス停で 話しかけられて これ 何 何 駅行き みたいな おばちゃんから バス乗ってか  
 らも のやつ / そう まあ あと 何分後ですよ とかいてて でまあ イヤホンつけてた  
 ら イヤホン外すじゃないですか まあ 別に話しかけるのはいいんですけど ただ その そ  
 の 今いった 乗ってからも 同じ 空間を 共有しなければいけないっていう この あの  
 あなたも辛いでしょ みたいな あなたも その 間 を埋めるために やでも 最近寒いね  
 みたいな もう 絶対訊きたくないでしょ みたいな / しんどいやつ / ほんとに やで  
 も あれかな 歳とったら そういうことあるのかな / まあ 昔よりひとりごとは多くなり  
 ましたね / よいしょ とか / 絶対中学生の時 いてなかったのに / よいしょって  
 思ってなくても よいしょ っていっちゃう / なんかさ 別に 立ち上がるのがしんどいわけ  
 でもないけど よいしょ っていっとこ みたいなのは ある なんか 自分の行動一個一個に  
 ああこうしとこ とか 今これしたから あれしとこ みたいな の 全部 口に出ちゃうみたい  
 な / なんか ボクシングでいう こう ジャブ打ちながら 距離取るみたいな きて き  
 て いていいながら 立つ みたいな きて きて いていいながら この場を離れようとしてま  
 すけど あなたは どう 反応するのかい みたいな ことだと思っただけですよ / 態度で示  
 す みたいな / あの きて きて の四文字には それが含まれてると 思っただけですよ  
 もうそういう ところから おじいちゃん おばあちゃん化は 進んでると思っただけですよ / 気  
 をつけたい おじいちゃん おばあちゃん の 話になっちゃった / そう考えると そうい  
 う 公共交通機関 って 出会いの宝庫だなあ と思って

番い・女性 確かに

番い・男性 その 不特定多数の人と 定期的に すれ違ったり 出会ったりするから

-----  
 日曜日

番い・男性 眼鏡はさ いつも黒縁なの 買うとき

僕 僕は 男性で 彼と 同じ 福岡県出身 で え で よく冗談をいいます でも  
 冗談をいうのは 人数が 多い時だけで ふたりっきりの時は めったに冗談をいいません な



ぜだかわからないですけど 動物の知識とか 虫の生態とかに 詳しいです 僕は 道にタバコの吸殻を ポイ捨てします でも 彼は それを注意できません

番い・女性 え どうして

僕           なんか 僕の この ルーティンみたいなのを 崩してしまうんじゃないかって思って 一回だけ 僕が 向こうを向いている時に 彼が 持っているゴミ袋に その吸殻を入れたことはあります

番い・女性 ええ すごい えらい

僕           僕は 常に 演技をしています 普段から それで あと すぐに 物事とか人のことを 動物に例えます 何々の象だな とか ぜんっぜんその例えが

————— (

ピンと

) —————

来ないんですけど

————— (

番い・男性   ピンと

) —————

来たんですよ こう 傘に入れてもらったまま 駅まで 一緒に歩いて で 駅できようならして ありがとうございます

僕           でも 動物に詳しい 僕に とっては 多分 すごいぴったり来た 例えなんだろうなと思って なんやねんそれ とは 簡単にはいえなくて そっかあ って思いながら いかその例え方に近づけたらいいなあ って 思いながら 聞いてて

番い・男性   それは 自分が それに近づけたらってこと

僕           その しっくりくる っていう

————— (

感覚

) \_\_\_\_\_

にどんどん近づけたらいいなあ ってこと

\_\_\_\_\_ (

番い・男性 感覚

) \_\_\_\_\_

と 似てるような気がしました さっきの あの 一秒にこう 一人だと間に合わないみたいな  
のは

僕 あと 僕は 上着が 小さいです ジャストサイズよりも 丈が短くて それがす  
ごく気になる けど 気になるから え ちっちゃくない って訊いたら なんか あんまその  
ことについて ちゃんと返してはくれなくて なんかちょっとなかったことになってしまって あ  
さわってはいけないところだったのかなあ っていう

番い・男性 そんなことはないでしょう

僕 感じ で だけど なんか 結構 暴走気味っていうか 暴走するのもなんか 場  
の空気を作ってくれてるのかな とは思うけど なんか すごい びっくり っていうか /  
ああ あと 僕は うーん 冗談か 本気かわからないですけど 自分のルックスに ある程度  
自信を持っていて よく メガネを外しては キメ顔をして来ます

番い・女性 それは キマってますか

僕 割と でも カッコいいな とは 僕は 思います / 思うけど なんか イラッ  
ともします

番い・女性 でもなんか イラッとさせようとしてるのかなっていうのもすごく 思う

僕 なんなんでしょうね あの キャラクターは

番い・女性 うん なんなんでしょう

僕 闇が 闇があるんでしょう

番い・女性 彼の 闇に 触れた瞬間っていうのは

僕 僕は ないですね もしかしたら 周りの人たちはあるかもしれないけど でも  
うん まだ 僕は 知らない というか まあ 多分 こう 本当に限られた人にしか 心の  
内を見せない タイプですよええ

番い・女性 見せてほしい

僕 見せてほしい ですか

番い・女性 あ あ 見せてほしいかどうかでいうと 別に

番い・男性 いい

番い・女性 見せてほしいわけでは ない

番い・男性 ない

番い・女性 でも 見れるなら 見てみたい気持ちも ないわけでは ない

番い・男性 ない

番い・女性 ま 見せたいなら って感じですね

番い・男性 どうぞ

番い・女性 見せたいならどうぞ 見せたくないなら そこまで無理強いしてまで 見たいとは思わない って感じですね

僕 あ そ 僕は 名前に 二が入ってて だから予想がつく 予想通りで お兄ちゃんは一がついて でも 妹は 三がつかない

番い・男性　　なんて名前なんですか

僕　　　　　　聞いてない　あ　ゆうこ

番い・男性　　ゆうこ

番い・女性　　聞いてない

僕　　　　　　ゆうこ　　ゆうこっほいから　　ゆうこ

番い・女性　　ゆうこ

僕　　　　　　有るに子で　　ゆうこ

番い・男性　　めずらしいですね

僕　　　　　　聞いてないけど　　ひろみかな

番い・男性　　ひろみ　　ひろみのひろは　　ゆうふく　　それこそ

僕　　　　　　ひろみのひろは　　いわさきひろみの　　ひろ　　あ　　やまでらこういちの　　こう

番い・男性　　ああ　　ああ　　なるほど　　み　　は

番い・女性　　うつくしい

僕　　　　　　うつくしい　　ほい　　てことか　　てか　　そうであると

番い・女性　　おそらく

番い・男性　　かならずや

僕 かならずや どっちかで どっちかは つけるときに悩んだ 名前 / 好感度だ  
だ上がりやん / タバコはポイ捨てするけど

-----  
月曜日

僕 彼が / 彼が / 彼が / 彼が

番い・男性 僕が / 僕が / 僕が / 僕が / 鉄格子の中で 出会ったのは とい  
うか あっちが先に入ってた で 僕は あとから入った でまあ あっちが先輩なわけじゃない  
ですか いうなれば で 僕は 後輩なわけだから まあ あまり こう 下手なことできない  
わけですよ で まあ 徐々に 徐々に 話して みたいとか こう 関係性 を築けたな っ  
て思った時に 気づいたのが あれ

番い・女性 あれ その入って来た 人が もう 明らかに 知ってる 感じで それは 中学  
の同級生だったんですけど 大人になってるし なってるんですけど もう目つきが 中学の時  
そのまま 結構中学の時から 目が気になってたというか 他に ない 目をしていて 何考  
え / るか 読み取れない からずっと 気になってたので 彼が もう 入って来た瞬間に  
わかって 結構 ざわついて あの 気持ちが でも相手が 気づいてるかどうか わからない  
から とりあえず 気づかないふりをして ま 一から / 関係性 / を築く みたいな感  
じで

僕 あんま詳しくはないんですけど まあ あんまり ちゃんと しっかりした 鉄格  
子っていうのか その牢屋みたいなのを想像してほしくないんですけど まあ とある 某国の  
某罪の 収容された人 で きっと お互いの罪を知らないんですよ でも 同じ 鉄格子の中  
に 入れられて で 仲良くなるんですよ 昔話をしたりとか ええ この国の この 未来の  
話をしたりとか でも時にはくだらない話をしたりとか でも 最初に その 内容 罪状って  
いうんですかね それを 話してないと 多分 後になればなるほど 話しづらくなるじゃな  
いんですか 話しづらくもなるし 訊き辛くもなる で まあ いつ その はなればなれ はなれば  
なれになるかも わからないじゃないですか 殺されるかもしれないし 解放されるかもしれ  
ないし 同じく 国家を転覆させる罪で捕まったとか だったら 意気投合するかもしれないで  
すけど まあ やですよ 鉄格子とね 人と出会うなんかね 恥ずかしいすもん

-----  
火曜日

僕            彼女が / 彼女が / 彼女が / 彼女が

番い・女性    私が / 私が / 私が / 私が / で なんか行きたくなる時があって  
まあ 行くと 使用中とか 書いてないから 開け て もう勢いよく 入ろうとしたら 人が  
いる でも びっくりして閉める でまあ なかったことにして

番い・男性    そういう車両には トイレが常設されてあって で その日は お昼ご飯をちょう  
ど 食べたあとだったんですね けど なんか すごくお腹痛くなっちゃって トイレのある  
車両に移ろう と思って 余裕もなくて もう ギリギリ みたいなどこまで 行って 運良く  
その トイレは 空いてて はあ なんとか間に合った と思って 用を足してたんですよ そし  
たら 急にドアが ふって開いて

番い・女性    でも トイレに行きたいから 待ってます で 出て来て ま 彼は 恥ずかしい  
で 私が 見たってもうバレてる そのまま スルーしてくれればいいものの スルーしたいで  
あろうに あろうに スルーせずに なんか やなもの見せちゃったね ごめんね みたいな感  
じで 変にフォローみたいなのに 入りはじめたりして

番い・男性    目 / の前に立っている 彼女と ええ 僕は 最悪な形で 出会っていると  
で その時間が だいたい二秒ぐらいだったと 思うんですけど で あっちが すみません っ  
ていって 扉をボタンで 閉じてくれた わけですよ で 僕は ああ しまったと 思いな  
がら なんか 頭に引っかかるような気がしてて で そのすみません っていう 声が そ  
の 中学生の時に クラスが一緒だった 彼女と 似ていて というか 彼女 そのもので  
姿とかは 全然 / 中学の時 / とは 違ったんですけど

番い・女性    アイスを 買ってもらって でも 気まずいじゃないですか 私は 見逃したいし  
彼も 見逃したい 見逃されたいはずなのに なんか 恥ずかしさのあまりにってしまうって  
たまに ある / なんか もし おならしちゃって 誰にも 聞こえてなくても あ おならし  
ちゃった って いわなかったらわからなかった みたいな のに 似た状況かな と思って

番い・男性 あ はい みたいな感じで 返事をして あの ちょっと すいません っていって 彼女は トイレに入ったわけですよ トイレ我慢してたわけですから 僕も その場から 離れられないわけですよ アイスによって このトイレの前に 縛られたわけで 多分 いなくなってるだろう とか 多分 思ってただろうけど 僕が いるわけで あ みたいな感じで 僕も はい みたいな感じで

僕 今 は もう 消えてしまっていて 彼が 消えるのは 出会う 前のこと 今 は もう 出会ってしまっていて だから 彼は 消えてしまっていて つまり 彼は 出会っていない し これから 今から も 出会うことは ない それが 一秒なのか 一秒なのかは わからなくて だけど 出会ってしまって 彼は 消えてしまって 彼は 出会わない 出会わない 代わりに 今 ここで こうして 話をしています

-----  
水曜日

番い・女性 また 昨日みたいに パラパラめくってて そしたら え 彼だ と思って てか 明らかにほんとに 彼で え 隣に住んでる と思って びっくりして ちょっとむしろ怖くなって 傘に入れてくれたこととかも え 実は 気づいてたのかなあ とかも 考えはじめたりして / 気持ち悪い / と思って 私は すぐさま 引越す準備を 始めました

番い・男性 あの そっから そっからは意識して か 開くようにはしてたんですけど 窓ね なかなか 時間帯は合わなくて で 三ヶ月くらい経ったのかな あ で 引越しの 業者が来てたんですよ あっちのアパートの方に で おや まさか と思って 窓からちょっと見てたんですよ そしたら 彼女の 姿があって で あ 引越すのか と思って 窓から 見てて で そしたら 視線が 彼女と 合ったんですよ その 作業している 彼女と で 会釈しようかどうか 考えたんですけど なんか ぼーっと見ちゃって で なんか 彼女も なんか そんな 挨拶する 感じでもなかったのかなあ 忙しいから 目は絶対合ってたんですけど 挨拶もなくて で そのまま 引越しちゃったんでしょね なんか 僕が その 思ったのは その時に ちゃんと 植物の名前を 訊いておけば よかったなあ と思って でもまあ 別に 飼って育てるとか そういうわけじゃないですけど なんかそういう 自分から こう 進み出したほうが おもしろかったんじゃないかなあ と思って なんか その時だけ なんか 奇妙な 感覚というか 滅多にない経験だったなあと うん そういう やつっすねえ

番い・女性 こんにちは って いったら こんにちは って返してくれて それで 植物好き  
なんですか って 結構 まあ ちょっと 大きめの声で そう 訊かれて 好き 好きです  
そう そうです みたいな感じで 答えて あ そうなんですね って 間が空いちゃったけど  
それなんていう植物ですか って 訊かれたから

番い・男性 なんか 植物どうこう って で 挨拶をね そんな時は できたんですよ できる  
んですよね で もう 何を訊いていいかわからないけども とりあえず 植物好きなんですか っ  
て 結構ちょっと 張り目で 訊いて そしたら はい そうなんですよ って行って で で  
あ へえ って行って あ そしたら ここで 会話が終わってしまう ってなって その植物の  
名前なんていうんですか っ

番い・女性 なんか 見たことあるような気がして その 彼を 彼をね 彼なんですけど そ  
れが どの記憶なのかっていうのは すぐには 出て来なくて もしかしたら デジャブみたい  
な ものなのかもしれないし 夢で 出会った人かもしれないし もしかしたら 芸能人に似て  
るくらいの 既視感かもしれない なあ って どこかで 見たことあるなあ って思いながら

番い・男性 あんまり 意識をせずに 窓を開けたもんだから こう あ あ って思って あ  
そしたら あっちが あ こんにちは みたいな いってくれて あでも 僕が 先にいったの  
かな でも多分 僕が 先にいったのかな でも こんにちは って挨拶をしてくれて で な  
んか 話を繋げなきゃって思って あの 植物好きなんですか っていったら あ そうですよ っ  
て いってくれて で ここで会話は終わっちゃうじゃないですか で ああ やばいやばい  
と思って せっかくだから何か 話したい と思って で あの しょく その 植物の名前なん  
ですか って 訊いたんですよ そしたら なんとかかんとかです って いったんですけど 僕  
には 正直 その 植物の 名前って なんか ややこしくて 全然聞き取れなくて で 僕は  
あの なんか え なん なんていいました とか 訊けばよかったんですけど あの その場  
で ちゃんと 聞いたふりをしてしまっ て あ そうなんですか って 応えたんですよ そした  
ら なんか あっちも なんか 植物好きなんですか って 訊かれたから あ や そ 植物  
は 嫌いではないんですけど みたいな こう 曖昧な返事をしてたら なんか あっちが な  
んか 電話が来たみたいで あ すいません みたいな感じで で 僕も あ と思って でも  
あんまりこうなんか 見てるのも

————— (

気持ち悪い

) —————



————— (   
番い・女性 気持ち悪い  
) —————

と思って 私は すぐさま 引越す準備を はじめました

番い・男性 じゃないですか こう だから 三分して戻って来なかったら 窓の前にいるのは やめようって で 二分ぐらいした時に戻って来て あ と 話しかけようかって思ったら あっ ちが 閉まっちゃって 窓が ちょっと 複雑というか

僕 僕は / ほんとに / あんまり覚えてなくて / どんなふうに出会ったか なんていうのを / あんまり思い出せなくて / 気づいたら とかだから だから 印象的な 出会いって訊かれたら 全然関わりのない人 / その瞬間だけ / 出会った人みたいなのが / すごい覚えてて / 出会いっていうか その 記憶に残っている その 印象的な人って いうのは やっぱり あの いますよ 僕も / それ以上でも それ以下でもない / それ以上でも それ以下でもない / 話

—————  
木曜日

僕 僕は これから 消えるかもしれない ただ 僕が 出会わなかった 僕が 出会った すべての誰か にとって 僕が 消えるか 消えていないかは 等しい価値を持った現象であって 今も 町は 雑踏している 誰かと 誰かは 互いに 消え合わずに 対話している 僕は 誰と出会うだろう 僕は まだ 僕は まだ 出会っていないだけなのかもしれない 僕は まだ 出会っていないだけなのかもしれない

—————  
※ 上演を希望する際は、有料・無料に関わらず、必ずメールにてご連絡いただき、戯曲使用の許諾をお受けください。